



補導委員歴28年間を振り返って

前沼津市補導委員会会長 渡邊 祥雅

1998年、私は、初めて沼津市青少年補導委員として教育委員会より委嘱を受けました。静浦という小さな地区で、大先輩からの要請を受けてのことでした。その先輩は、補導委員会副会長をされていた方でしたが、どうしても退任したいとのことでした。私は、先輩の言う意味も、補導委員の活動についてもよく分からないまま願ってしまいました。



【R7 年度代表者会 5/9】

補導委員一年目で静浦地区副部長を仰せつかり、補導委員会代表者会に参加することになりました。ところが、補導部長の方が、急遽、退任することになり、2年後、私が部長として、地区の活動を取りまとめることとなりました。

地区の部長と副部長は、先に述べました補導委員会代表者会に出席するだけでなく、補導委員会事務局である青少年教育センター主催の中央補導にも参加します。中央補導は、センター職員と各地区代表者でグループをつくり、金曜日の夜 7 時から 1 時間、青少年教育センターから沼津駅周辺まで巡回し、中高生を中心とした青少年に声をかけ、安全に帰路についてもらうという活動です。

私が、中央補導に参加するようになって間もないころのことです。新聞社から、子供たちに声をかけている様子取材したいとの依頼がありました。声かけ担当に私たちが指名され、私は慣れないながら一生懸命に声かけをしました。新聞社の方は、その状況をカメラに収め、話の内容を記事にしたようです。28年も前の出来事ですが、今でも鮮明に記憶が甦ってきます。

一方、25年ほど前から「高校生によるクリーン作戦」が始まり、現在もしっかり継承されています。当時、歩道橋の下や河川敷の壁、公園の遊具などに多くの落書きがありました。それを消すのは簡単でなく、近い色のペンキを上から塗って目立たないようにしていきました。地道な活動ですが、参加した高校生や近くを歩く人々の明るい表情を見ることができました。

28年間、補導委員をさせていただき、補導委員会副会長を15年、会長を今年の3月まで8年間務めさせていただきました。この間、多くの先人の皆様や補導委員会を通してお世話になった皆様に感謝申し上げます。結びになりますが、今、生まれ変わっても補導委員をやりますかと問うたら、「はい」と答えた私がいいます。

面接相談＆電話相談

◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など、青少年に関する相談を直接（面接）または電話で行うことができます。



1 面接相談

新しい環境に慣れ始めた一方で、疲れや不安を感じることもあるかもしれません。そんなときは、一人で抱え込まずに、どうぞお気軽に青少年教育センターへご相談ください。相談員が寄り添いながら一緒に考えてまいります。

☎055-951-3440 *月～金 9:00～17:00

青少年教育センター（沼津市八幡町97）の4階に面接室があります。

保健センターと同じ建物です。

2 電話相談 愛称：やまびこ電話 055-951-7330)

◎相談受付時間……午前10時～午後7時 月～金曜日（祝日を除く）



情報コーナー

「いじめ早期発見の難しさ」

青少年教育センター 臨床心理士 林 彩子

文科省によると、全国の小・中・高校などのいじめ認知件数が令和6年度は769,022件となり、過去最多となったとの報道がありました。

これは、いじめ防止対策推進法の浸透やICTを活用した心の健康観察、アンケートの充実などにより、児童生徒の小さなSOSを拾えるようになった結果と考えられます。

一方で、いじめの重大事態は1,404件と増加し、その34.9%は重大事態として把握する以前には「いじめとして認知されていなかった」ことが明らかになりました。

ここには、いじめの初期サインが周囲の大人にとって“言語化しにくい”という心理的な難しさがあるように思います。

いじめの初期サインは、目を合わせない、休み時間の動きが変わるなど、曖昧で「確信に変わらない違和感」として現れます。人は曖昧な状況に対して「気のせいかもしれない」と判断を保留しやすく、言語化が遅れがちです。

また、日常的に子どもと関わる大人ほど、慣れや期待がフィルターとなり、問題を“正常化”してしまふことがあります。

さらに、いじめを認めることは対応や調整の負担を伴うため、無意識に「まだ様子を見よう」と回避的になることもあります。

子ども自身も「自分が悪い」「迷惑をかけたくない」と感じ、サインを隠す傾向があり、SNSいじめのように外から見えにくい領域では、違和感を言語化することが一層難しくなります。



このような背景から、いじめの早期発見は個々の大人の努力だけでは限界があると言えます。大切なのは、曖昧な違和感を一人で抱え込まず、チームで共有し、話し合える環境をつくることだと思います。

子どもの心の変化を丁寧に見守るためには、学校・家庭・地域が連携し、子どもの声を受け止める体制を整えていくことが求められていると言えるのではないでしょうか。



【体験活動「はばたき」】

【相談指導学級】の様子

【体験活動「はばたき」】

5/8(金)公園で遊ぼう(2人)
5/26(火)みんなで遊ぼう(4人)
6/10(水)切り絵に挑戦(4人)
6/26(金)佐野美術館に行こう(6人)

体験活動「はばたき」は、1対1の面接相談とは違って、他の通所者や担当以外の職員とも関わることでできる小集団活動です。

「公園で遊ぼう」では、近くの公園に行き、参加者と職員と一緒に鬼ごっこなどで遊んで、楽しい活動となりました。

「みんなで遊ぼう」では、本所の体育室を利用して、ピンポン玉リレーや風船バレーなどのレクリエーションに取り組み、楽しく汗を流しました。

「切り絵に挑戦」では、自分が用意したり、本所が用意したりした元絵を使い、切り絵を楽しみ、思い思いの作品づくりを行いました。



【6/10 切り絵作品】

「佐野美術館に行こう」では、ねこの写真の展覧会を楽しみました。行き帰りの途中、人づきあいが得意でない子が、他の参加者とコミュニケーションをとっている姿も見られて有意義な行事となりました。

【相談指導学級】(通称：はばたき教室)

沼津市では、「校内フリースペース」が令和7年度に4つの小学校で試験導入され、本年度全ての小学校に設置されました。また、中学校でも、学校や教室に行きづらさを感じている生徒に対し、今まで以上に居場所作りや支援に努めているところです。それにより、本年度、はばたき教室を利用しているお子さんに、例年にない変化が見られています。

4月から、校内フリースペースにほぼ毎日通い、はばたき教室への通所がなくなったAさん、学校とはばたき教室を上手に併用しているBさん、校内フリースペース中心ながらも、ときどきはばたき教室に顔を出したり、体験活動「はばたき」に参加したりしているCさん。そのため、現時点では、はばたき教室の利用者は少なくなっています。しかし、ふれあいの時間におしゃべりをしながら、他のお子さんとゲームをしたり体を動かしたりすることを楽しみに通所してくるDさんや学習の遅れを取り戻そうと、毎日通所しているEさんなどにとっては、依然として、はばたき教室はなくてはならない存在となっており、今後も、学校内外の居場所の連携を大切にしていきたいと考えています。

子供によって、はばたき教室を利用する理由は様々です。しかし、どの子にとっても居心地がよく、子供が自分自身でエネルギーを充電し、次の一歩を踏み出してみようという気持ちになれるよう、教室を運営していきたいと思っています。

青少年教育センターの活動予定(8・9・10月の主な活動)

体験活動「はばたき」		補導関係	
9月11日(金)	源兵衛川に行こう	9月11日(金)	感謝状贈呈式
9月25日(金)	創作活動に挑戦		補導委員会代表者会
10月6日(火)	香陵アリーナで体を動かそう	10月29日(木)	青色防犯パトロール講習会
10月22日(木)	買い物ツアー(イーラde)		
	*夏休み中の活動はありません。		
中央街頭補導	8月 7(金) 14(金) 18(火) 19(水) 21(金) 25(火) 26(水) 9月 2(水) 4(金) 8(火) 15(火) 16(水) 29(火) 30(水) 10月 2(金) 6(火) 7(水) 9(金) 13(火) 14(水) 16(金) 21(水) 23(金) 28(水) 30(金)		

*天候等により、変更をすることがあります。

補導記録より 4月～6月

- ・駅北口で、自転車の高校男子による自転車並列進行を見かけた。
- ・カラオケ店で、駅周辺で、未成年の少年による喫煙や飲酒が気になるとの話を聞いた。
- ・プラサヴェルデ屋上で高校生グループが多く見られた。
- ・地区補導の巡回コースは抜け道として使われることが多いので、安全のために懐中電灯や 自発光式反射材、反射ベストを着用して巡回している。
- ・下校中の高校男子 7 人中 3 人が無灯火だったので声をかけたら、すみませんと言ってすぐにライトをつけた。
- ・神社の祭典が行われ、屋台が十数店出店していた。天気にも恵まれ、家族連れ、小中高校生で賑わっていた。集明小学校が開校したため、第一校区の小中学生も多く来ていた。
- ・沼津署スクールサポーター参加。ゲームセンターにいた中学男子 2 人には、友達同士のゲームセンター入場は NG だと伝えた。



【6/16 火曜補導】

補 導 の 目

令和8年度の少年補導活動に向けて

青少年教育センター 入谷 達也

令和8年度の沼津市補導委員会は、「青少年を健やかに育てる会」から推薦された208名の補導委員が委嘱を受けてスタートしました。また、今年度は2年に一度の役員改選の年であり、沼津市補導委員会会長として長年ご尽力くださいました渡邊祥雅会長に代わり、副会長であった高島明美様が新会長に就任し、新体制で補導活動を行っていきます。青少年の健全育成のため、地域の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



【5/8 補導委員会総会・代表者会】

補導活動に先立ちまして、5月14日（木）22日（金）に、青少年教育センターにて新任補導委員研修会を開催いたしました。今年度は110人の新任補導委員の方に参加していただきました。研修会では、静岡県警察本部生活安全部人身安全少年課東部地区少年サポートセンターの方にお越しいただき、「少年の問題行動の現状」というタイトルで、SNS や匿名・流動型犯罪グループ（通称トクリュウ）などを題材に、昨今の青少年の犯罪事情について講話をしていただきました。



【5/22 新任補導委員研修会】 また、青少年教育センター職員から、沼津市の補導活動について映像教材および青少年教育センターで作成している「補導のしおり」を使用しながら、補導活動への考え方、活動時の声かけの仕方等を説明させていただきました。私自身も、今年度から補導担当となったこともあり、大変実りある研修会であったと感じております。新任補導委員の方々におかれましては、沼津市の青少年健全育成のため、ぜひとも活用していただければと思います。

「補導のしおり」については、各地区の補導部長様にも第一回代表者会にて配布しました。昨年度以前から補導活動に従事していただいている方も、改めてご一読いただき、今年度の補導活動にご活用いただきたいと思います。